

令和 5 年

高松市教育委員会 6 月定例会

会 議 録 (抄本)

6月20日(火)開会

6月20日(火)閉会

出席した教育長及び委員			
教育長	小柳和代		
委員	吉澤 潔		
	葛西優子		
	関元盛夫		
	小方朋子		
	富家佐也加		
欠席した教育長及び委員			
委員			
説明のため会議に出席した者等			
教育局長	河野佳代		
教育局参事	一原玄子		
教育局次長 総務課長事務取扱	長谷山隆義		
教育局次長 生涯学習課長事務取扱	合田紀子		
学校施設整備室長	川西正晃		
学校教育課長	山地芳樹		
保健体育課長	岩佐孝		
高松第一高等学校 事務長	鶴見信也		
美術館美術課長	中北浩之		
美術館美術課長補佐	牧野裕二		
建築課長	上原茂		
総務課長補佐	春日布三		
総務課総務係長	別所里美		
会議録署名委員	吉澤 潔		
事務局担当書記	岡谷有紗		

【特記事項】 傍聴人なし

議 事 日 程（6 月 定 例 会）

日程第 1 議案第 19 号 高松市図書館協議会委員の任命について

日程第 2 議案第 20 号 高松市美術館協議会委員の委嘱について

日程第 3 報告事項

- 1 令和 5 年第 3 回高松市議会臨時会答弁要旨について
- 2 令和 5 年第 4 回高松市議会定例会提出議案に対する意見の申出について
- 3 高松市の教育に関するアンケート調査結果の概要について
- 4 令和 5 年度学校医の感謝状贈呈について

【令和5年6月20日（火） 議 事 内 容】

午前9時30分 開会

教育長が、会議録の署名委員に吉澤委員を指名。

日程第1 議案第19号

議案第19号 「高松市図書館協議会委員の任命について」

中央図書館長から、高松市図書館協議会委員の任命について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

教育長が、各委員に諮り、原案のとおり可決。

日程第2 議案第20号

議案第20号 「高松市美術館協議会委員の委嘱について」

美術館美術課長から、高松市美術館協議会委員の委嘱について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

教育長が、各委員に諮り、原案のとおり可決。

日程第3 報告事項

報告事項1 「令和5年第3回高松市議会臨時会答弁要旨について」

教育局長から、令和5年第3回高松市議会臨時会答弁要旨について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

報告事項2 「令和5年第4回高松市議会定例会提出議案に対する意見の申出について」

総務課長から、令和5年第4回高松市議会定例会提出議案に対する意見の申出について説明。

<質疑>

- 委員 請負契約締結後の物価水準等の変動による契約金額の変更については、契約書に記載されているのでしょうか。
- 学校施設整備室長 契約約款の中にスライド条項という規定があり、今回のような物価水準の変動が激しい時には、請負代金額の変更額を発注者と受注者が協議して定めることができます。今回はそれに基づき、請負業者から請負代金額の変更の請求があったため協議を進めたということです。
- 委員 企業は関係なく、物価の水準が上がった時に契約金額の変更ができるということですか。
- 学校施設整備室長 はい。急激なインフレーション等が生じるということもありますので、工事期間の中においてという形になります。
- 教育長 主には、建築資材等の高騰が原因ということですか。
- 学校施設整備室長 工事期間が長期間となると、工事の後半には当初契約した金額を大幅に超える金額で資材を購入しなければならないといった状況になる可能性もありますので、そのような規定が契約約款に記載されております。

報告事項3 「高松市の教育に関するアンケート調査結果の概要について」

総務課長から、高松市の教育に関するアンケート調査結果の概要について説明。

<質疑>

- 委員 高松市に住み続けたいと思う回答が約6割であることから、今後の取組内容を検討する必要があると記載がありますが、これは6割より上げたいのですか。下げたいのですか。

- 総務課長 保護者は住み続けてもらいたいと思う回答が約7割なので、7割を目標とするわけではないですが、学年が上がるにつれて割合が下がっているので、学年が上がったとしても高松市に住み続けたいと思ってもらえるように、次期教育振興基本計画では一定程度、高松市に住み続けたいと思う回答の割合を上げたいと思っております。

- 委員 若い人は高松市に住み続けることよりも外に出ていくこと、あるいは世界に羽ばたくことを望むでしょうし、年齢が上がるにつれてそのような意識が芽生えてくるので、割合が下がっていくのは健全な姿だと思います。高松に住み続けているだけでは、世界的な人材が出ないのではないですか。これを教育の施策として取り上げるということは、実態にそぐわないと思います。これでは国際的な人材や日本的な人材は育たないと思います。

- 総務課長 おっしゃるとおり、グローバル化や国際的な人材を育てるということは、非常に大事なことだと思います。一方で、高松市としては人口減少という部分も課題なので、一度県外に出たとしても、また高松市に帰ってくるという選択をすることもとてもいいことだと思っております。そういった意味で、我々としては地域に残ってほしいという思いは持っていきたいと思っております。

- 委員 住み続けたいという言葉での表現なので、意味合い的にずっと高松市に居ないといけないという風を感じるのではないのでしょうか。以前、総合教育センターで開催されたシビックプライドの醸成についてを議題としたパネルディスカッションに参加しました。その際に、一度県外へ出たからこそ高松市の良さが分かったという意見を聞いて、ずっと住み続けることもいいと思うが、一度外に出て帰ってくることもいいことなのではないかという意見もありました。住み続けたいという表現ではなく、

住みたい街や暮らしやすい街という言葉に換えてもいいと思います。魅力のある街という言葉であれば、外国人の方の意見も含めて、高松市のいいところが聞けると思いますので、言葉の選び方の問題だと思います。

- 委員 学校では外へ出て学ばないという風に育てるべきだと思います。技術や知識を身につけて、少しでもいいので、個人にとっても社会にとっても役立つ人材を育てることが教育であり、高松に戻ってくるためや高松に住み続けるための教育ではないと思います。

 - 教育長 子どもたちは年齢が上がるにつれて、少しずつ外に向かって視野が広がっていくので、発達段階ですべて高松に住み続けるのではなく外の世界も見たいという気持ちになることは当然のことだと思います。就職を考えるときに、田舎にいても仕方がない、都会の方がいい等の単純な理由で就職先を決めるような段階で、自分たちが生まれ育った高松の良さにどれだけ気づいているのか、郷土の魅力をどれだけ知っているのかということについては少し課題なのではないかと思います。このアンケートの住み続けるという表現と高松を誇りに思う気持ちや愛する気持ちということがぴったりと合っていない部分があるとは思いますが、目は外に向かっていくけれども、途中で高松の良さに気づきながらも外に出ることや外で活躍することを望む、また、離れていても高松を思う気持ちはある等の兼ね合いが難しいと思います。

 - 総務課長 シビックプライドの醸成ということで、高松に住んだことに愛着心を持ってもらうということは必要なことであり、最終的に子どもたちがどう選ぶかということも出てくると思いますので、次期計画ではそれを踏まえた表現についても検討いたします。
-

報告事項4 「令和5年度学校医の感謝状贈呈について」

保健体育課長から、令和5年度学校医の感謝状贈呈について説明。

<質疑>

(発言する者なし)

午前10時11分 閉会

議決事項

「高松市図書館協議会委員の任命について」

「高松市美術館協議会委員の委嘱について」